

調査実施機関名	第一次中間評価書における指摘事項	指摘事項に対する改善内容
1 環境省	<p>○ 調査が所期の成果を収めるためには、長期間にわたる予算と体制の確保が不可欠であり、そのための努力を継続すべきである。その際、平成25年度は、リクルートとフォローアップが重なり、所要の予算額がピークを迎える一方、平成26年度以降は、フォローアップ、詳細調査、化学分析等に重点的に取り組む必要があることを踏まえるべきである。</p> <p>○ 予算・体制の確保のためにも、また、リクルート率・追跡率の確保・向上のためにも、エコチル調査に関する国民の認知度・理解度の向上が極めて重要である。特に、フォローアップのフェーズでは、参加者において、重要な調査に参加しているとの意識を継続して持ってもらい、脱落することなく継続して調査に参加していただくことが重要であり、広報・啓発活動においてもこうした側面を重視すべきである。このような観点から、調査の進捗状況や成果に関する情報を学術的な成果がとりまとめられる以前の段階で、より早く社会に発信していくことが重要である。</p> <p>○ 全米子ども調査はいまだ準備段階に留まっているが、大規模な出生コホートの代表的事例として引き続き連携を図るべきである。その他の国においても大規模出生コホート調査の準備・検討が進んでおり、エコチル調査は、こうした大規模出生コホートの先駆けとして、引き続き、国際機関との連携・国際学会等での世界に向けた情報発信等に取り組むことが期待される。</p> <p>○ 各ユニットセンターへの予算配分に当たっては、現実的なリクルート見込み数に見合った適切な配分を行うとともに、ユニットセンターにおける調査実施の積極的取組が報われるよう留意すべきである。</p> <p>○ 「ヒトゲノム・遺伝子解析に関する倫理指針」が改定されたことを踏まえ、エコチル調査における遺伝子解析の方針を早期に確立する必要がある。その際、東北メディカル・メガバンクを始めとする他のコホート・バイオバンクとの連携を図るべきである。</p> <p>○ 追加調査（環境省の承認のもとに、ユニットセンターの独自予算で、調査対象者を限定して実施する調査）に関しては、追加調査のその後の進捗状況を環境省としても把握するとともに、その進捗に関する情報や成果等について、発表の場を作り、国民の理解の増進や若手研究者の育成につなげていくことが期待される。</p> <p>○ 調査参加者の個人情報の紛失事案が発生したことを踏まえ、厳格な個人情報管理を徹底するべきである。</p>	<p>○ 予算については、平成25年はリクルート最終年度であると同時にフォローアップ業務も合わせて行うことから、平成24年度予備費と平成25年度当初予算で計61億円の予算を確保した。また、平成26年度はリクルートが終了する一方で、化学分析や詳細調査が開始されることを踏まえ、新たに化学分析や詳細調査に係る予算を計上して約59億円の概算要求を行っている。</p> <p>○ 広報・啓発活動については、10万組のリクルート達成を目指すとともに、高い追跡率を確保するために、参加者だけでなく広く国民にもエコチル調査に興味を持ち続けてもらう必要がある。このため、国際シンポジウム（11月）と3周年シンポジウム（1月予定）で、調査の進捗状況や、これまでに得られた成果を発信する。また、3周年シンポジウムに併せたイベントの開催や、妊婦や母親向けイベントへの出展等を計画している。</p> <p>○ 「大規模出生コホート調査に関する国際作業グループ」の会合に参加し、米国をはじめとした他国の出生コホート調査との連携を図るとともに、国際学会等へ出席し海外への情報発信を行っている。</p> <p>○ 各ユニットセンターへは、それぞれのリクルート数に応じて必要な予算の配分を行った。</p> <p>○ エコチル調査における遺伝子解析については、現在コアセンターにおいて計画立案に向けて検討中である。また、東北メディカル・メガバンク全国WGへのオブザーバー参加や、内閣府健康・医療戦略室との連携等、他のコホート・バイオバンクとの情報交換を行っている。</p> <p>○ 追加調査等の成果公表に際しては、事前申請を受けて発表内容や進捗状況の把握に努めている。更に、平成26年度環境総合推進費の重要研究テーマ（行政ニーズ）に、「子どもの健康に影響を与える環境要因の解明」を設定し、追加調査をより充実させるよう務めた。</p> <p>○ 個人情報管理について 適切な個人情報管理を行った上で、エコチル調査を実施していくために、コアセンター、メディカルサポートセンター及びユニットセンターにおける個人情報管理ルールを取り決めた「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」の策定をコアセンターに指示した。</p>
2 コアセンター	<p>○ エコチル調査の実施主体として、各種委員会を運営して調査内容や現場の課題等を検討し、全国のユニットセンターと緊密な連携を図りながら全体をとりまとめている。</p> <p>○ 各ユニットセンターにおけるリクルート目標は研究計画書で定められており、概評で述べた方針に沿って、目標の見直しを早急に進める必要がある。</p> <p>○ 今後、高い追跡率の確保が最重要の課題の一つとなることを踏まえ、フォローアップ状況の把握、管理の手法について早急に検討を進め、ユニットセンターに対するガイダンスを示す必要がある。</p> <p>○ 平成24年度以降の参加者の子どもが1歳半になる平成26年度から、詳細調査が開始されることとなる。詳細調査は、精神発達や免疫系、内分泌系への影響、環境曝露の把握等について、詳細な解析を行う重要な事業である。学術的、政策的な意義が高く、かつ現実的に実行可能な調査設計をできる限り早期に進めるべきである。</p> <p>○ エコチル調査における遺伝子解析の方針、手法、倫理的事項等について、早急に検討を行うべきである。</p> <p>○ 個人情報管理について、具体的な規則を定め、その徹底を図るべきである。</p> <p>○ 平成23年度の年次評価を踏まえ、データ管理システムのメンテナンス業務及びヘルプ窓口業務の体制の見直し、データ管理システムの改修、リクルート業務改善につながることを目指した意見交換、情報交換、研修会等の取組を実施している。引き続き、業務の実態を踏まえ、必要に応じて体制の強化、システム改修、研修等を行うことが期待される。</p>	<p>○リクルート目標の見直し リクルート開始後2年間の実績と今後の見通しに基づき、平成25年3月に、リクルート目標数の再設定を行った。その際、調査地区周辺の市町村について、調査実施体制を大幅に変更することなくカバー率50%を確保できる見通しがある場合には、調査地区を拡大することとし、2ユニットセンターにおいて各1市を調査地区に追加した。（詳細は別紙）</p> <p>○フォローアップ状況の把握、管理手法 各質問票の回収率（登録率）の推移を整理・追跡することによりフォローアップの現状を的確に捉えることとしたほか、質問票未返送者への督促の基本方針や住所不明者に関する住民票閲覧・照会手順を明確にした。</p> <p>○詳細調査の調査設計 パイロット調査での医学的検査の実施結果をフィードバックしつつ、詳細調査計画書（案）の検討・調整を進めているところである。</p> <p>○遺伝子解析 エコチル調査における遺伝子解析については、当面、中心仮説に係る解析において重要度の高い遺伝子をリストアップするとともに、倫理的な課題の整理を行うことなど、計画立案の基本方針を平成25年5月に定めた。この方針に沿って、第1次計画の立案に向けた検討を進めているところ。</p> <p>○個人情報管理に係る規則 エコチル調査で取り扱う情報の機密性に応じ、管理方法、個人情報を取り扱う場所の入退室管理、メール送信の可否、持ち出しの可否等に関する取り扱いを定めた「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」を平成25年10月に策定した。（詳細は別紙）。</p> <p>○体制の強化、システム改修、研修 エコチル調査における統計的側面に関する事項について検討を行う「疫学統計専門委員会」を設置した。 データ管理システムを改修し、参加者の住所履歴の登録・検索・編集機能の追加（平成25年3月）、疾患情報の抽出・登録機能の追加（9月）を行った。 管理者研修（平成25年7月）を実施したほか、RC研修（10月、11月）を実施しているところである。</p>
3 メディカルサポートセンター	<p>○ 平成23年度の年次評価においては、フォローアップや詳細調査の具体的な内容の検討の遅れ、長期にわたる体制の確保の必要性が指摘されたが、平成24年4月に組織体制が見直され、各分野の専門家が主体的に検討作業を進める体制が構築されている。引き続き、効率的に検討を進め、パイロット調査の結果を踏まえてフォローアップ、詳細調査の設計が行われ、かつユニットセンターにおいても準備の時間がとれるように配慮していくべきである。</p> <p>○ 今後、産婦人科の関与が引き続き重要であることに加え、フォローアップにおける小児科の関与が重要となる。各ユニットセンターの小児科学教室や地域の小児科医との具体的な連携・協力の確保について、メディカルサポートセンターも支援していくことが望まれる。</p>	<p>○平成25年度は前年度に見直した組織体制をさらに強化、パイロット調査の調査票の完成時期を早めて、その作成段階からユニットセンターに意見聴取するようにした。その結果、より本調査の質問票に近い内容でパイロット調査を行うことが可能となり、パイロット調査の結果を本調査に活かすことができるようになった。詳細調査の設計に関しても、パイロット調査で、実際に採血や診察を行うなど具体的な準備を行いつつ、コアセンターと協力してユニットセンターへの意見聴取を行い作業を進めている。</p> <p>○産婦人科に関しては、メディカルサポートセンター産科の渡辺医長を中心にワーキンググループを構成して連携を行い、ユニットセンターからメディカルサポートセンターが主催する各種の委員会やワーキンググループに小児科医を派遣して頂いたり、ユニットセンターの求めに応じ、地域の小児科医との連携支援を行っている。</p>

4 北海道ユニットセンター	<p>○ 現状のまま推移すると、平成25年度末までにリクルート目標数を達成することは困難な状況である。現実的に達成可能なリクルート目標を設定する必要がある。</p> <p>○ 調査地域を拡大すれば、リクルート数の伸びはある程度期待されるが、札幌地域及び旭川地域のカバー率（推計）はそれぞれ35.8%、24.0%（直近6か月では29%）に留まっており、調査地域の拡大によってエコチル調査全体のカバー率のさらなる低下が見込まれるため、調査地域を拡大することは適切でない。</p> <p>○ 特に、旭川地域については、当初、旭川市の半分の地域を調査対象地域にしており、平成23年10月以降に旭川市全域に拡大したものの、カバー率（推計）は低水準に留まっている。平成24年5月には市役所におけるリクルートを本格開始し、カバー率はある程度伸びているが、さらに声かけの強化等に努力すべきである。</p>	<p>○リクルート目標数を8250人へ修正した。札幌・旭川地区ではリクルート改善策を行い、平成24年11月以降の北海道ユニットセンターの地域カバー率は、平成24年10月以前の35%から平均42%に上昇した。</p> <p>○旭川地区では、母子手帳配布時のパンフレットの配布、市役所でのリクルートはリクルート時間を拡大、医療機関へのRC配置時間を増やし、医療機関へ教員がエコチルリクルート協力についての再度の依頼を行った。平成24年10月～平成25年7月までの10か月間については同意数796人（月平均79.6人）となっており、201.7人が第一次中間評価の際の旭川推定月対象者数（母子手帳発行数）であったため、この間のカバー率（推計）は39.5%まで改善した。</p> <p>○札幌地区では、新規医療機関の参加、調査対象者の多い医療機関において医療機関スタッフによる調査参加の呼びかけ、保健センター母親教室でのPR回数の増加などの対策を行った結果、声掛け数が増加し、月平均同意数が135人（以前は118人）、地域カバー率が42%と改善した。</p>
5 宮城ユニットセンター	<p>○ 東日本大震災で甚大な被害を受けた地域が含まれているにも拘わらず、リクルートは極めて順調に行われており、カバー率（推計）も67%と、高い水準を達成している。</p> <p>○ リクルート目標数は、平成25年10月に達成見込みである。目標達成後もリクルートを継続することにより、全国10万人の目標に向けて寄与することができることから、リクルート目標数の引き上げについて検討することが望まれる。</p> <p>○ 診察記録票の転記とデータシステムへの入力が遅延しており、今後増加が見込まれるフォローアップを着実に進めていく観点からも改善が望まれる。</p>	<p>○リクルート目標数について、当初9,000人のところ、環境省・コアセンターとも協議の上、9,900人という新目標数を掲げたところである。東北メディカル・メガバンクが調査を開始する事情もあり、リクルート期間は、気仙沼、石巻、岩沼を本年10月末までとし、大崎地区を来年3月末までと設定した。ただし、本年4月以降の声かけ数の推移を見てみると、漸減傾向が観察され（同意率は変わらない）、実際の同意者数も漸減している。実際の到達点は、9,400～9,600人の間になるのではないかと考えられる。声かけ数の減少は、エコチル調査側の要因ではなく、被災地域全体における人口減（特に若い年齢層の減少）によるものと思われる。同意率の改善を考えるが、すでに同意率は高い水準にあり、大きな効果はないと推測される。</p> <p>○OCR入力作業については、本年5月より体制強化を行い、週70時間に相当するスタッフを新たに配分し作業を進めている。このためOCR入力状況は改善しつつあり、年度内に解決達成と考えている。</p>
6 福島ユニットセンター	<p>○ 従来の調査地域（県北・相双地域）におけるリクルート目標数6,900人は、東日本大震災等の影響で出生数が減少していること、相双地域でのリクルートが中断していること、カバー率を70%と高く設定していたことなどから、平成25年度末までに目標数の達成は困難な状況であるが、カバー率（直近1年の推計値）は、62%と、高いレベルを達成している。</p> <p>○ 平成24年10月から福島全県に調査地域が拡大し、自治体や医療機関等との協力体制が確立してきている。拡大地域におけるリクルートの状況についてまだ評価できる状況にはないが、10月～12月のリクルート数は順調に増加し、12月は500人に達し、拡大地域におけるリクルート目標数9,000人（平成24年10月～平成26年3月の18か月間）を達成するペースとなっている。</p> <p>○ リクルート目標に関しては、地域の出生数の推移など不確定な要素があり、正確に再設定することは難しいが、できる限り現実的な目標を設定していくべきである。</p>	<p>○平成25年3月の研究計画書の変更において、リクルート目標数の設定については従来の調査地域（県北・相双地域）と拡大地域に分けるのではなく、全県として設定することとなった。</p> <p>○目標数については、全県拡大後の期間が短く、リクルートの状況もまだ安定していないこともあり、精度の高い推計は困難であったが、それまでの実績を踏まえると概ね妥当と思われたことから、15,900人で変更なしとなった。</p> <p>平成25年4月～7月のリクルート数は、約600～650人/月である。</p> <p>○協力医療機関との情報交換会の開催、カバー率向上のための声掛け方法の改善依頼、協力医療機関の状況・要望に応じたRC派遣形態の見直し、ユニットセンター独自及び市町村等の協力を得ての広報（調査の周知と参加呼びかけ）の実施などにより、リクルート数の一層の増加に努めている。</p>
7 千葉ユニットセンター	<p>○ リクルートについては、平成23年度の評価時に比べて改善が図られ、概ね順調に進んでいるが、当初の出遅れの影響もあり、平成25年度末までに、リクルート目標数にはわずかに達しない見込みである。</p> <p>○ しかしながら、妊娠初期にリクルートできなかった人を、妊娠中・後期でリクルートしたり、出産数の多い木更津市において母子健康手帳交付窓口が一本化されることに伴いリサーチコーディネーター常駐を開始したりすることにより、今後のリクルート数はある程度伸びると期待される。</p> <p>○ データシステムへの入力に関して、生後1か月の質問票だけ遅延しており、改善が望まれる。</p>	<p>○リクルートについては、改善と工夫を重ね順調に伸びてきていたところだが、出産数が多くこれまでもリクルート数が多かった協力医療機関の一つで、契約上の個人情報の取り扱い等の要項についてなかなか合意に至らず、リクルートが滞っている。なお、この問題については、コアセンター、環境省にも相談中のものである。</p> <p>○上記のリクルート数減少をカバーすべく、母子健康手帳交付窓口でのリクルートを増やすために新たにRCを常駐させたり、広報やノベルティグッズの更なる工夫を始めている。</p> <p>○データシステムの入力については、すべての時期で滞りなく進むように入力スタッフ配置などマネジメントを行い改善されている。</p>
8 神奈川ユニットセンター	<p>○ 協力医療機関を増やすなど改善を図り、リクルートはかなり順調に進捗するようになった。リクルート目標数は、平成25年12月に達成する見込みである。目標達成後もリクルートを継続することにより、全国10万人の目標に向けて寄与することができることから、リクルート目標数の引き上げについて検討することが望まれる。</p>	<p>○3年間のリクルート目標数は6,000人（167人/月）を予定していたが、平成24年度のリクルート数が月平均205人と大きく改善したので、リクルート目標数が6,650人に増加となった。平成25年度のリクルート目標数を月平均210人と高く設定したが、不同意者を減らすなどの改善を行い、目標達成できるよう取り組んでいる。</p> <p>○生後1か月までの質問票、ドクター調査票はRCと事務局スタッフが連携し順調に回収、採血等の生体試料の採取も医療機関の協力を得て採取可能な範囲でおおむね回収できている。</p> <p>○生後6か月以降の質問票回収率（送付数に対し）は、6か月97%、1歳94%、1.5歳90%と90%を超えているが、徐々に回収率が減少してきている。誕生月には謝礼とともに誕生祝いを送付し、次回の質問票記入のモチベーションアップなどに努めているが、さらなる工夫が必要である。また、質問票未回収の場合には、メール・電話・封書などの通信手段を使い、できるだけ回収するように努めている。</p>
9 甲信ユニットセンター (山梨大学)	<p>○ リクルートは順調に進捗しており、平成25年度末には目標を達成する見込みである。</p> <p>○ 現行の協力医療機関の体制のまま、調査地域を拡大することにより、カバー率50%以上を維持しつつリクルート数を増やせる可能性があり、全国10万人の目標に向けて寄与する観点から、調査地域の拡大について検討することが望まれる。</p>	<p>○甲信ユニットセンター（山梨）では、体制をそのままにして、リクルート目標数を当初の4,488人から4,590人へ増加した。ただし、調査地域の拡大については、リサーチコーディネーター及び協力医療機関の負担と、拡大に伴う増加分とのバランスを勘案して、調査地域の拡大は見合わせた。</p> <p>○甲信ユニットセンター（山梨）では、リクルート目標数の増加分を含めて堅調に進捗しており、目標を達成する見込みである。</p>

	(信州大学)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現状のまま推移すると、平成25年度末までにリクルート目標数を達成することは困難な状況である。 ○ しかしながら、調査地域外での出生数が多い状況から、協力医療機関が拡大されたところであり、その効果を踏まえつつ、現実的に達成可能なリクルート目標を再設定するべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調査地域外での出生数をカバーするため平成24年11月19日より14か所の医療機関と新たに協定登録を実施した。 ○ 上記による拡大効果として、現在までの拡大先での実績は総声掛け数：192人、同意者数：170人、同意率88.5%であり同意者数ならびに同意率を牽引している。当初週間リクルート目標数18人に対して拡大前の週平均同意者数は13.4人であったが拡大後は19.3人に伸長し週平均5.9人増により当初の進捗の遅れを吸収しつつある。 ○ 現在(8/24)の実績は2,025人まで到達し当初目標2,712人まで残り687人であるが、残り週数(32週)と現状の週間実績を鑑み、現実的に達成可能な目標数を2,660人に再設定し参加者リクルートを遂行している。
10	富山ユニットセンター	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成23年度評価結果の指摘を受けて、リサーチコーディネーター統括責任者を選定し、リサーチコーディネーター情報交換会を開催するなど、リサーチコーディネーター同士の意思疎通や経験を共有する機会が拡充されている。 ○ しかしながら、現状のまま推移すると、平成25年度末までにリクルート目標数および目標カバー率を達成することは困難な状況である。現実的に達成可能なリクルート目標数を設定する必要がある。 ○ 現行の協力医療機関の体制のまま調査地域を拡大することについても検討課題になっているが、カバー率の見込みについて精査した上で、全国10万人の目標に向けて寄与する観点から、調査地域の拡大について検討することが望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成24年1月～12月の実績及びリクルート体制の見直し、調査地域の拡大による達成可能なリクルート目標数を設定した。これまでのリクルート者数の実績は、150人/月である。平成24年1月から新たに調査地域に加わった魚津市におけるリクルート体制を再検討することにより、2人/月の増加が見込まれた。また、現行の協力医療機関の体制のまま、カバー率50%を確保できることが見込まれたため、滑川市を調査対象地域に追加した。滑川市の拡大により、146人/年(12人/月)のリクルート者数増加が見込まれた。よって、平成25年度における新規リクルート者数は、月あたり150+2+12すなわち164人と見込まれる。これらの結果をもとに、富山ユニットセンターにおける最終リクルート目標数を5,700人に修正した。
11	愛知ユニットセンター	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現状のまま推移すると、平成25年度末までにリクルート目標数を達成することは困難な状況である。 ○ しかしながら、協力医療機関別の対応策を検討しており、まだ伸びしろのある医療機関があることから、今後のリクルート数はある程度伸びると期待され、その効果も踏まえつつ、現実的に達成可能なリクルート目標数を再設定するべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 再設定されたリクルート目標数(5,850人)は達成できる見込みである。 ○ 直近6ヶ月(2013年2月～7月)の平均リクルート数は182名/月、前年同月(2012年2月～7月)は153名/月であり、前年の同月期間比20%増を達成している。 ○ 調査地域内及び隣接地域の医療機関の分娩取り扱い開始等に伴う受診動態の変化に適宜対応し、協力医療機関の新規追加(2医療機関+1助産院)、リクルート機会の拡大(夕診対応、常駐RC配置などの体制強化)に取り組んだ。 ○ 長期に亘り多大な支援・協力を頂いている全協力医療機関へユニットセンター長より感謝状(医療機関表彰)を贈呈した。 ○ 目標達成のために、統括マネージャをはじめ一人一人のスタッフが現場で必要な対応を考え、率先してリクルート改善につなげてくれていること、丁寧なリクルートを常に心がけてくれていること等、たゆまぬ努力の積み重ねによるところが大きい。
12	京都ユニットセンター	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成23年度評価結果を受けて、母子健康手帳発行窓口において、ほぼ全ての対象者に声かけする体制が整備された。また、同意書や質問票未提出者への働きかけについても、改善が図られている。 ○ 月別リクルート数は増加傾向であるものの、現状のペースで推移すると、平成25年度末までにリクルート目標数および目標カバー率を達成することは困難な状況である。現実的に達成可能なリクルート目標数を設定する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現在、母子手帳発行窓口において、ほぼ全ての対象者に声かけを行う体制が確立し継続されている。同意書や質問票の未提出者に葉書や電話で提出の依頼を定期的に行う体制を整備し、質問票の登録率は他のユニットとほぼ同率を維持している。さらに高い登録率を目指して提出の働きかけを継続していく。 ○ コアセンターとの協議の結果、リクルート目標数を3,850人(122人/月)に変更した。協力医療機関やユニットセンターから、参加が未定の調査対象者への働きかけを強化した結果、平成25年8月29日の集計で、母親のリクルート数3,010人、達成率78.2%であり、再設定後のリクルート目標数の達成は確実であり、目標数を上回るよう一同努力している。
12	大阪ユニットセンター	<ul style="list-style-type: none"> ○ リクルートは順調に進捗しており、平成25年度末にはリクルート目標数を達成する見込みである。 ○ 現行の協力医療機関の体制のまま、調査地域を拡大する場合、拡大後のカバー率は48.6%と予測されている。カバー率の見込みについてさらに精査した上で、全国10万人の目標に向けて寄与する観点から、調査地域の拡大についても検討することが望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調査地域の拡大によってリクルート目標数をアップし、調査参加者の一層の獲得に努めている。目標とする8,000人の参加者を確保するために平成25年3月末までに5,090人の同意者があったため、平成25年4月から月平均243名の同意が必要とされる。これまでの状況をみると、4月247人、5月265人と順調にリクルート数が伸びたが、6月226人、7月208人、8月239人と目標数を下回っている。 ○ このため、8月29日の産科・小児科合同専門委員会において、各協力医療機関での調査対象者への一層の声掛けを依頼し同意者の増加を働きかけている。また、進捗状況に停滞が見られる協力医療機関については、直接訪問して依頼等を行う予定である。 ○ さらに、調査対象地域における啓発も一層強化して行う。
14	兵庫ユニットセンター	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成23年度評価結果を受けて、スタッフ全員の研修を実施したり、土曜日の診療にリサーチコーディネーターを派遣したりするなど、改善が図られている。 ○ 昨年度よりリクルート数は増加しているが、現状のペースで推移すると、平成25年度末までにリクルート目標数を達成することは困難な状況である。現実的に達成可能なリクルート目標数を再設定する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成23～24年度の実績より、当初のリクルート目標数(6,600人)を達成することは困難であるため、5,600名を新たな目標数として再設定した。この目標を達成するために、平成25年度に2,028人(169人/月)のリクルートを行う必要がある。従来は150人/月のペースであったが、平成25年度にはリサーチコーディネーターを増員し、従来に引き続いて定期的な会合や研修等を行ってリクルート体制の改善を図っている。また、センター長及び専任教員が協力医療機関を訪問して改めてリクルートへの協力依頼を行い、月毎のリクルート数は増加傾向となっており、目標達成に向けて引き続き努力する。
15	鳥取ユニットセンター	<ul style="list-style-type: none"> ○ リクルートは順調に進捗しており、平成25年度末にはリクルート目標数を達成する見込みである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目標通り順調に進行し、平成25年度末にはリクルート目標数を達成する見込みである。

16	高知ユニットセンター	<p>○ リクルートはかなり順調に進捗しており、平成25年12月にはリクルート目標数を達成する見込みである。</p> <p>○ 現行の協力医療機関の体制のままで、調査地域を拡大することにより、カバー率50%以上を維持しつつリクルート目標数を引き上げることも可能であり、全国10万人の目標に向けて寄与する観点から、目標達成後もリクルートを継続するとともに、さらに調査地域を拡大することについても検討することが望まれる。</p> <p>○ 調査参加者の個人情報を保管したUSBメモリの紛失事案が発生したことを踏まえ、再発防止策を図るとともに、エコチル調査全体として個人情報管理の強化と徹底が必要である。</p>	<p>◎調査地域の現状を詳細に調査した結果、調査地域を拡大せずとも、リクルート目標数の6,000人から7,000人へ上方修正が可能となった為、調査地域拡大は不要と判断した。現状で目標達成は十分可能な状況で推移している。</p> <p>◎USBメモリの紛失事案について、原因究明、エコチル調査に与える影響、影響軽減策及びを分析し、環境省に報告を行った。その後、責任者及び担当者が大学より戒告処分を受けた。</p> <p>ユニットセンター全職員に、個人情報管理について研修を行い、ルールに基づいた運用を行うよう徹底し、現場での情報収集及び、不必要な個人情報の所持禁止の取り組みを現在行っている。また、ユニットセンターのある事務局でも、24時間のセキュリティを施し、より安全性の高い環境を構築する予定である。</p> <p>環境省及びコアセンターと協力し、大学の情報セキュリティポリシーを遵守し、個人情報の適正な管理に努める。</p>
17	福岡ユニットセンター (産業医科大学サブユニットセンター)	<p>○ 平成23年度評価結果を受けて、マンパワーの適切な配置と同意率向上の努力がなされた。</p> <p>○ その結果、リクルートはかなり順調に進捗するようになり、平成26年1月にはリクルート目標数を達成する見込みである。目標達成後もリクルートを継続することにより、全国10万人の目標に向けて寄与することができることから、リクルート目標数の引き上げについて検討することが望まれる。</p>	<p>マンパワーの適切な配置と同意率向上について</p> <p>① 病院側との協議を重ね、1つを除く全ての医療機関で、全ての調査対象者に直接トレーニングされたRCがエコチル調査参加を募る環境を整えた（オンコール体制や医療機関で行われる保健指導教室活用など）。</p> <p>② 母子健康手帳発行窓口でのエコチル調査宣伝活動の強化を産業医科大学サブユニットセンターのマンパワーを割くことなく実現している（窓口でのエコチルボールペンの活用、各種エコチルグッズのデコレート、エコチル宣伝用の母子健康手帳用下敷きの配布など）。</p> <p>リクルート目標数の引き上げ後の経過について</p> <p>第一次中間評価を受けて、リクルート目標数が2,700人から2,950人に引き上げられた。平成25年8月31日時点での総リクルート数は2,348名であり、残り602名である。平成25年度（4月から）の月平均リクルート数は86名であり、このままのペース維持により、引き上げされた目標数を上回る参加者が9月より3月までのリクルート活動で見込まれる。この結果、全国10万人の目標に向けてさらに寄与すると考えられる。</p>
	(九州大学)	<p>○ リクルートについては、カバー率を60%と高く設定していたこと、協力医療機関の閉院や移転の影響などもあり、カバー率（直近1年の推計値）は、49%とほぼ目標カバー率を達成しているものの、現状のまま推移すると、平成25年度末までにリクルート目標数を達成することは困難な状況である。</p> <p>○ 調査開始当初は同意率が84%（平成23年度自己点検・実地調査・所見シートより）と高かったが、直近1年の同意率は75%と低下していることを踏まえ、現実的に達成可能なリクルート目標数を設定する必要がある。</p>	<p>平成24年度の状況を踏まえ、達成可能なリクルート目標数を再設定した。</p> <p>並行して、協力医療機関の閉院や移転後の状況が落ち着いた後、改めてリクルート数改善のため、ユニットセンターとリサーチコーディネーター、協力医療機関との密な連携を行い、広報活動も行った。声掛け数は4人/月増加したものの、同意率は下がり、結果としてリクルート数に変化はなく再設定後のリクルート目標数通りとなっている。カバー率も、49%の達成率である。</p>
18	南九州・沖縄ユニットセンター	<p>○ リクルートは概ね順調に進んでいるが、出生数の減少による影響もあり、平成25年度末までに、リクルート目標数にはわずかに達しない見込みである。</p> <p>○ カバー率の悪い調査地域にリサーチコーディネーターを再配置するなどマンパワーの見直しを進めることにより、今後のリクルート数はある程度伸びると期待されるが、現実的に達成可能なリクルート目標数を設定する必要がある。</p>	<p>(熊本サブユニットセンター)</p> <p>○ カバー率の悪い天草地域の協力医療機関に、12月よりリサーチコーディネーターをパートで1名雇用した。その後、リクルート数の増加がみられ毎月の目標数をほぼ達成できるようになってきた。</p> <p>○ 定期的に天草地域を訪問し、リサーチコーディネーターと打ち合わせを行い、問題点を見出し解決に向けての計画・実行・評価まで行うように心がけた。</p> <p>○ リサーチコーディネーターとの連絡を頻繁に行い、モチベーションが継続できるようにコミュニケーションの向上に心掛けた。その結果、一人一人の認識が変わり、全体のリクルート数の増加につながった。</p> <p>○ 毎月のリクルート数を見ながら、月目標に達成しない医療機関には連絡を行い、協力依頼を続けた。</p> <p>○ 平成25年度のリクルート目標数を減らしていただいたが、改善策の効果もあってか、おおむね順調に経過している。今年度の月目標が74名であるが、90～105名程度のリクルートが行えている。</p> <p>(宮崎 サブユニットセンター、沖縄サブユニットセンター)</p> <p>○ リクルートは順調に推移しており、特に問題はない。</p>